11-11-10107-3
「ダンス課題学習法」を用いた授業におけるグループ内の生徒間相互作用と教師の関わりの検討～学習活動を活性化する教師の関わりの事例～
○中村なおみ（東海大学）、齊藤 悟（知立市立知立中学校）、宮本乙女（名古屋女子大学附属中学校）

「ダンス課題学習法」は、実践研究の積み重ねにより、生徒の主体的な学習を導き出すための意図的計画的な学習計画と、に応じた選択肢が提案されてきた。ここでの「課題」は、運動を習得するのではなく、与えられた課題を自分たちで工夫して「活用」创意工夫を生かした解決策を「探求」していくことを意図している。本研究では、「ダンス課題学習法」による授業での、生徒間の相互作用と各グループへの教師の関わりを詳細に調査・行動記録におこし、観察観点を設け分類した。①学習者が初めてのダンス単元（1年生）、初めての課題学習法でのダンス単元を指導する指導者②学習者2回目のダンス単元（2年生）・指導者20年の指導者。教師の用いる指導言語は、グループにおける生徒間の相互作用（主に言語）においても使用されていた。教師の関わりと、生徒間の相互作用の変化について具体的事例を挙げて報告する。

体育科教育学6

11-11-10108-1
中学校保健体育科教員の免許更新制と職能に関する意識調査（1）
―免許更新制と受講者の課題意識―
○加賀 勝（岡山大学教育学部）、田中 聡（香川大学教育学部）、小林浩平、原 祐一、宮坂雄悟（東京学芸大学大学院）、山本俊彦（三重大学院）、松田恵示（東京学芸大学）

免許状更新講習については、受講者の課題意識調査が不可欠となると考えられる。本報告は、中学校保健体育教員の免許更新制と職能に対する意識の現状を調査し、主に受講者の課題意識を明らかにすることを目的としている。調査は本年2月から3月にかけて、東京都、三重県、岡山県の3地域すべての中学校保健体育科教員に対して行った。調査対象は973校であり、そのうち98校1396名の回答を得た。回収率は学校数61.4%であった。結果として、運動の楽しさや「コツ」を指導できること、生徒に話を聞かせることや適切な生徒指導ができること等、実践に関する学習指導と生徒指導についての質問項目について必要性を強く感じていることが明らかとなった。

11-11-10108-2
中学校保健体育科教員の免許更新制と職能に関する意識調査（2）
―教員の属性の視点から―
○田中 聡（香川大学）、加賀 勝（岡山大学）、小林浩平（東京学芸大学大学院）、原 祐一（東京学芸大学大学院）、宮坂雄悟（東京学芸大学大学院）、山本俊彦（三重大学院）、松田恵示（東京学芸大学）

本報告は、中学校保健体育教員の免許更新制と職能に対する意識の現状について、教員の属性（性、勤務地域、職名、出身校等）による差異に注目し、その実態を明らかにすることを目的としている。結果として、男女差については、男子教員は女子教員よりも、生徒指導を担当する割合が多く、生徒指導に対する力量や教職員・保護者との人間関係構築に関する資質等、教科指導以外の職能も重要視する傾向があった。逆に女子教員は男子教員よりも、体育授業での指導に関する職能をより重要視する傾向が見られた。地域差については、教員の職名の構成比や出身校（国立・市立）の構成比に違いがあることとの他、外部指導者への意識、人権や同和教育に関する意識等に地域の特色が見られた。教諭と講師の違いによる意識差については、保健の教材研究、部活指導、進路指導、学習経営の必要性に関して違いが見られた。出身校の違いによって、学習指導要領に関する意識、総合的な学習に関する意識等に若干の違いが見られた。